事例No.	2882
公表年度	R5
団体の属性	一般市
団体名	福岡県糸島市

事例区分	地域活性化

タグ	・地域運営組織 ・関係人口

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

事例10 福岡県糸島市ーiTOP（九州大学まちづくりサークル） その１、その2

出典

地域づくり人材の養成に関する調査研究会（第3回）

事例10　福岡県糸島市－iTOP（九州大学まちづくりサークル）　その１

団体名	iTOP（九州大学まちづくりサークル）		運営形態	任意団体（規約等なし）
活動範囲	複数市区町村（糸島市、福岡市西区）			
中核を担う職員等	任用形態	非常勤	出身地	地域外（九州出身者多数）
	年齢	10代、20代		

【取組み概況】

○地域との協働を通じ、**大学周辺の活性化、自己成長を図る事を目的**に、糸島市、福岡市で地域活性化のサークル活動を実施。主に４つのプロジェクトを展開し、糸島市においては**「ENGAWA PROJECT」**として、**中心市街地（前原商店街）の活性化を目的とした事業を展開**。※同プロジェクトのみ、継続的な実施の観点から、NPO法人化している。

○上記、自主活動のほかに、糸島市からの受託事業として**情報発信事業**（LINE公式アカウント愛し糸島）、**市事業の各種支援事業**（例：糸島市未来の地域リーダー育成事業支援等）を実施。

○情報発信事業は、**住民登録の無い学生との連絡手段**として、登録者数を増やすため、同サークルにLINE記事作成・配信を依頼、現在**登録者は800人に上り**、行政情報の伝達、市の魅力発信を行っている。市事業の支援としては、イベントの運営支援や講演等を実施。

○令和４年度は、**市民提案型まちづくり事業**で「いとしまちづくりンピック」を開催。まちづくりにおける**民間の力の掘り起こし**に貢献。

○部員（会員）は、新入歓迎イベントにて確保、むやみに敷居を下げて部員を増やすと言うことではなく、**普段どおりを見せて共感する方に残ってもらっている**。仮入部で100人程度応募があり、そのうち30～40人が本入部する。

○入部する学生は、高校時代から地域活動に携わり、**高校の延長線上で大学でまちづくりをしてみたい者**が半分、一方で特に経験は無いが、**入部して面白く活動続けている者**も半分いる。

○大学公認ではあるが、大学の正規科目ではなく、あくまでサークル活動なため、**単位等の認定はない**。

【設立の経緯】

○2011年、九州大学が糸島市にキャンパス移転し、**学生の自己成長**ということで、**新しい土地で何か挑戦をしたい**ということでグループが立ち上がった。

事例10　福岡県糸島市－iTOP（九州大学まちづくりサークル）　その２

○挑戦にあたっては、地域との関わりが必要なため、**糸島市、福岡市と連携**、後々地域活性化と名称を変え今に至る。
○設立当初は、学際的な共創学部の学生が中心であったが、今は**文系・理系双方の学生が参加**している。

【行政との関わり】

○業務を委託はしているが、**契約締結ではなく、情報発信に対し報酬を支払う**。
○行政から仕様を示してお願いするというのではなく、**iTOPが自ら考え企画したことを市が支援する**といったことがこれまででであった。今後も同じように様々なアイディアを出してもらいたいし、そういったことを通じて**学生の成長も図られる**のではと考えている。

【中核を担う者の状況】

126
○**代表は毎年交代**。現在は13代目。現代表は長崎県諫早市出身。**高校時代に地域活動に参加**したことで、地域に対する思いが醸成され、大学での活動に繋がる。
○高校時代に地域の様々な方の話を聞き、地元にいろいろと問題があることに気づいた。しかもそれは時間的猶予がそんなに無いものもあって、そういった課題を解決したく大学を志望した。糸島で取組んでみると諫早と同じ課題を抱えていることが分かった。**諫早・糸島に共通する課題は、全国的な課題**ではないかと思う。
○OB・OGとの繋がりは、**SNSの同窓会グループ**及び**年１回の総会**にて確保している。そこで様々な助言や励ましももらえる。※今回の調査にあたっても、現代表が、初代代表より当時の状況などのレクを受けた様子。コアメンバーであったOB・OGは、**まちづくり関連の仕事に就いている割合が高い**。2代前の代表は「雲孫財団（いとしまでまちづくりを行う会社）」に入社した。
○iTOPは、主に**ソフト面からのまちづくりのアプローチ**なので、社会に出て必要となる力、例えば**ファシリテーション能力**のなどは、授業でも学ぶが、**活動を通じて地域との対話の中で身につける**ことができる。またコミュニティを重要視した人の成長、人との対面するときの話が中心になってくるので、メンバーの視野も広くなる。
○糸島の地域の方々は、**学生の挑戦に対し、ポジティブで、応援してくれる**。やってみたい事について、行政も地域も、様々な人につなげてくれる。その人がまた別の人を「この人面白いからしゃべってみて」といった形で紹介してもらうことで、**様々に縁のつながりを持つ**ことができた。